

〒630-8044 奈良県奈良市六条西4-6-3 ☎0742-44-1811 FAX0742-47-5766 URL <http://gojouyama.jp>

「しごとりハビリテーション」をスタートしました。

五条山病院デイケアセンターでは、平成28年6月より「しごとりハビリテーション」コースをスタートしました。このコースは、障害をオープンにして就労を目指すもので、現在7名の方が登録しております。

しごとりハビリテーションの目的

「しごとりハビリテーション」は、トレーニングを受けることで職業技能が向上し、就労に結びつくことだけを目的にしているではありません。「しごとりハビリテーション」を受けることで、①症状をコントロールする方法を知り、就業生活が送れるようになること。②どんな働き方が自分に合うのかを知ること。③どんなサポートがあれば働けるのかを知ること。この3つについての自己理解を深めていただくことを目的としています。利用者様がご自身について理解されたことを支援者と共有して、就労に向けてどのような支援が必要なのかを検討していきます。

プログラム内容

「しごとりハビリテーション」には週3回以上の参加をおすすめしています。なぜなら、働くにあたり週3回程度は自宅以外の場所で活動する力が必要になるとを考えているからです。「しごとりハビリテーション」の午前中のプログラムは、SST、WRAP（元気回復行動プラン）、健康自己管理、認知行動療法、ビジネスマナー講座です。デイケアセンターでは、これらのプログラムは、症状を悪化せずに就労生活を維持するためにとても役立つものだと考えているため、積極的に参加いただき、活用してもらえばと思います。

午後のプログラムは、月曜から金曜までの毎日がワークトレーニングです。パソコン、事務トレーニング、内職作業、実務トレーニングの4種目から、どんな仕事がしたいのか？どんな仕事が自分に合うのか？を考え選択してもらいます。このワークトレーニングを通して、仕事への取り組み方を身につけていただき、また、どんな仕事が得意で苦手なのかを把握し、将来の就労に役立てていただきたいと考えています。

精神障害をもつ人にとって働くとは？

病気や障害をもつ人にとて、働くということは単に収入を得ることだけでなく、自分が社会で役に立っているのだという実感できる機会につながるのではないかでしょうか。働くことにより、自分の人生と症状の管理に責任をもつこと、生活や余暇に対してより満足感が得られることなど、多くのメリットが期待されます。

「しごとりハビリテーション」では、「働く」という同じ目標をもつ利用者様がお互いに支え合ってトレーニングしておられます。利用者様がそれぞれの課題に直面し、乗り越えていく姿を目の当たりにすることで、私たちスタッフも力をもらっています。これからも私たちスタッフは、利用者様の就労支援に精いっぱい努力させていただきたいと思います。

訪問看護ステーション「ののはな」からのお知らせ

24時間体制はじめました。

365日・夜間・休日を問わず、訪問看護ステーション「ののはな」の看護師が、利用者様やご家族様から看護に関する連絡や相談にお電話で対応する体制をとります。また、必要に応じて緊急時に訪問看護を行う体制をとります。



新任医師の紹介 天野妙先生

6月より五条山病院に異動となりました天野と申します。初めて訪れた際には、紫陽花は雨に濡れてとても艶やかに咲き、木々や庭はとても美しく整えられており感嘆しました。病院内も閉鎖病棟は全てつながり、自由に行き来したり、回廊型の病棟から中庭に自由に出入りしたりと、とても開放的な病棟であることに驚きました。身体科に比べて精神科受診に心理的抵抗がある方も多いと思いますが、他科同様、少しでも早く治療を開始し回復につなげていきたいと思っておりますので、もし困っていることがあれば気軽に相談していただきたいと思います。関係者の方々と連携しながら、地域の精神科診療に少しでも貢献できるよう邁進していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

◆病床数	
精神科急性期治療病棟	51床
精神一般病棟	53床
精神療養病棟	270床

◆関連施設
 サポートセンター「夢」
 相談支援事業所「夢」
 グループホーム「さくらそう」「ふきのとう」
 共同住居「オータニハイツ」
 訪問看護ステーション「ののはな」

◆診療科目：精神科・心療内科・内科
 ◆診療時間：月曜日～土曜日 午前 9:15～12:00
 午後 12:45～15:00
 ◆受付時間：月曜日～土曜日 午前 9:00～16:30
 (予約制)
 ※診察は初診も含めすべて予約制です

◆休診日：日曜日、祭日
 年末年始(12月30日～1月3日)、5月1日、8月15日
 ※救急および時間外受付は随時おこないます。

診察担当医 平成28年06月01日より

	診察時間	月	火	水	木	金	土
1診	9:15～12:00	山田	神谷	北林	榎原	速水	五十嵐
2診	9:15～12:00	神谷	北林	榎原	駒喜多	五十嵐	山田
3診	9:15～12:00		浜畑				上村
	12:45～15:00	天野	速水	藤田	藤田	天野	

■=男性の医師 ■=女性の医師

※出張等で変更になることがあります。

※上記診察担当医は予定です。変更される場合があります。予めご了承下さい。



アクセス

- 近鉄奈良駅前・JR奈良駅前より
奈良交通バス「六条山行」で終点下車すぐ(所要時間40分)
- 近鉄橿原線西の京駅より
奈良交通バス「六条山行」で終点下車すぐ(所要時間8分)
- 近鉄奈良線学園前駅より
奈良交通バス「西の京高校行」で終点下車南方向へ徒歩15分

法人理念：思いやり

基本方針：ひとりひとりに応じた医療と福祉で社会参加をサポートします。

当法人は禁煙を推奨しております。

喫煙は、指定場所以外ではご遠慮ください。



日本精神科看護技術協会学術研修会・岩手大会について

岩手県盛岡市で行われた日本精神科看護技術協会学術研修会に参加させていただきました。一昨年に院内で発表した「急性期病棟で働く看護師に対するサポート方法の検討」と「長期保護室隔離患者の行動制限最小化をめざして」という2題の研究を発表しました。全国大会の人数はすごく多くて、会場の広さ、空気感に大変おどろきました。発表していない私がこの感覚なので、発表者2人はもっと緊張したことだろうと思います。発表後の質疑応答でもしっかりと返答していました。良い研究でしたとコメントも頂くことができました。

今回の発表は245席の研究と55席の実践報告がありました。すごい数です。さすがに全て聞くことはできませんでしたが、その中で印象に残った研究が「初めて精神科に入院し、荷物検査を受ける患者の思い」という研究でした。入院を受け入れる時に、業務として日常化てしまっている対応。それが始めて入院する患者様にとって、「拘置所にいるようで怖い」「普通とは違う病院に入院した」といった不安感や恐怖感を持ったと記されていました。また、「ここは精神科」と言われることも辛く感じ、お金や携帯電話などの当たり前の日常が制限されることにも抵抗を感じているといった意見が聞かれたといいます。このことにより、「今までの対応ではいけない。」「入院した時から看護は始まってる。」という考察がされました。私たちスタッフは、精神科に慣れてしまっていて、初めての精神科への不安感というものへの配慮を忘れかけているのではないかと痛感しました。忙しさの中でつい急ぎ足での対応になってしまっていた自分に気づかせていただくことができたように思います。

このような、発表会や研修に参加することは、自分自身では気づくことができないことに気づかせてもれるとても良い機会になると思います。今回参加させていただいた本当にありがとうございました。

精神療養病棟・東2病棟 川崎竜一



お知らせ

平成28年7月31日をもちまして、面会ホール及び売店を閉鎖いたしました。
売店は中庭に移転をいたしました。ご面会は、入院されておられます病棟ホールにてお願ひいたします。
ご理解、ご協力よろしくお願ひいたします。



新面会受付



サポートセンター「夢」の活動報告



今年も夢菜園が始まりました！！！

キュウリ、トマト、赤しそ、ピーマン、なすを植えました。毎日、朝と夕に水やりをして、大きくなっていく野菜をみながら、みんなで成長を楽しみにしています。

キュウリは、さっそくサラダにして食べました。おいしかったです♪そして、今年は何も植えていなかったプランターから、青じそやゴーヤが芽をだしました。植物の力を感じました！



茶たいむで作りました！！！

茶たいむでは毎月1回、参加者でお菓子を作り食っています。今回は、たまご焼き器でバームクーヘンを作りました。火加減や巻く作業が難しかったけれど、トッピングなど楽しんで作りました。

ひと足早いごじょう山の夏祭り

楽しんで
いただきましたか？



患者給食委託業者・富士産業株式会社が、大ホール閉鎖を惜しんで行事に夏祭りをイメージした企画をしてくださいました。

縁日でおなじみの焼きそばやフライドポテトなど、患者様の要望を取り入れながら夏祭りにふさわしいメニューを提供してくださいました。

普段見られない浴衣姿の従業員の方のお出迎えや屋台をイメージした飾り付けなどは新鮮で、職員も患者様も楽しんで食事をすることが出来ました。

非日常空間で味わう食事は、とても良い思い出になったのではないでしょうか？

今後、大ホール閉鎖後にも工夫をして患者様に喜んでいただける食事提供を考えていきたいと思います。

編集後記

今年の夏も暑い日が多くなるのでしょうか？ここ数年の夏の天気は、降れば洪水。降らなければ渇水。日本列島が「両極端な水」に悩まされてきました。また日本列島には無縁と思われていた各地で起こる竜巻被害も記憶に新しいところです。今日まで培われてきた防災に対する準備や対策もめまぐるしく変わる気象状況には対応できないのではないかと感じています。数年前に「特別警報」も新たに設けられました。このように変化する状況の中では既存概念を柔軟に対応できる「応用力」に見える力が必要になると感じました。